

大きく 4 点についてお伺いいたします。

始めに記録的な猛暑の対応についてお伺いいたします。

「今日も暑いですね。」この挨拶を連日交わしていた気がします。

今年の猛暑は異常気象といえます。1898 年の統計開始以降、平均気温は最も高くなり福島県伊達市や石川県小松市では気温が 40 度を記録しました。東京都心でも、8 月末には今年 22 回目の「猛暑日」となり、年間の最多記録を更新することになりました。厳しすぎる残暑は 9 月に入ってもなかなか収まりそうにありません。

令和 3 年から全国で運用が開始された熱中症警戒アラートが連日のように発表されています。その中で最近よく耳にするのが暑さ指数(WBGT)です。

暑さ指数(WBGT)とは、人間の熱バランスに影響の大きい気温・湿度・輻射熱の 3 つを取り入れた温度の指針です。この暑さ指数(WBGT)が 28 を超えると熱中症患者の発生率が急増します。

そこで学校における熱中症対策についてお伺いいたします。

今年の 7 月 28 日に山形県米沢市で、市立中学校に通う女子生徒が部活動を終えて帰宅途中に、熱中症の疑いにより意識不明で病院に搬送され、その後、死亡しました。学校活動に関する熱中症対策のガイドラインでは、厳しい暑さの中で部活動を実施するときは、事前に「暑さ指数」を学校にある専用の機器で測定し、中止や制限を決めるため確認する必要がありますが、部活動の顧問は確認を怠っていました。

また、北海道伊達市の小学校で8月22日に小学2年生の女子児童が体育の授業のあと熱中症の疑いで倒れその後、死亡しました。

伊達市では22日正午すぎに最高気温33.5度、暑さ指数は32.3で環境省が「運動の原則中止」を呼びかける基準の31を超えていました。伊達市は不適切な対応を認めました。

亡くなった方のご冥福を祈るとともに、このような事故が繰り返されないことを強く願います。

熱中症予防には、活動前に適切な水分補給を行うとともに、活動中や活動後の水分や塩分の適宜補給や体を冷やすことが重要になります。

北区の小中学校には、熱中症対策として一部に冷水器が設置されています。運動中の水分補給に冷えた水がよい理由は二つあります。一つは冷えた水は深部体温を下げる効果があり、もう一つには、胃にとどまる時間が短いので、水を吸収する器官である小腸に速やかに移動するためです。このため、冷水器は有効です。

小学校の子どもたちはタブレットを含めランドセルが重いということが問題視されています。その中でさらに子どもたちは熱中症対策として水筒を持っていきます。これは非常に子どもたちには負担になっています。

ボトル給水型の冷水器があれば小さな水筒を持って行って、冷えた水をくみ直すことができるようになります。

また、昇降口にミストシャワーを設置している学校もあります。

校庭で運動をして熱くなった体の表面温度を下げる効果が期待されています。

これらの事故を踏まえ、北区の小中学校における熱中症対策について以下お聞きします。

北区の小中学校における熱中症予防や暑さ指数に対するガイドラインはどのように定められているのでしょうか。

また、暑さ指数による体育の授業の中止などはいつ、だれが何を基準に判断をするのでしょうか。

今年は北区の小中学校で熱中症対策として、体育の授業や夏休みのプールなどの実施はどのような実態だったのでしょうか。

北区内の小中学校におけるボトル給水型冷水器の設置状況をお聞かせください。

全ての小中学校にボトル給水型冷水器を、各フロアとまではいかなくとも、せめて外から上がってくる昇降口であるとか、体育館には設置が必要だと考えますが区の見解をお聞かせください。また、今後の設置予定などお伺いいたします。

区内小中学校のミストシャワーの設置状況と今後の整備計画についてお聞かせください。

わくわく☆ひろば(放課後子ども教室)は、暑さ指数(WBGT)が 31 を超えた場合は中止をする場合があるとしています。東京では 6 月から 31 以上になった日が多数ありますが、実際に中止をしたわくわく☆ひろばはあったのでしょうか。以上お伺いいたします。

次に北区内の公園等の利用についてお伺いいたします。

始めに区立公園における熱中症対策についてお伺いいたします。

豊島区では区立公園で 35℃以上になると予想される日は臨時休園をして連日開園できない状況になっていました。

北区の区立公園の利用についてガイドラインはないのでしょうか。

区内の公園で、熱中症対策として公園利用を控えるように注意喚起をすべきと考えますが区の見解をお聞かせください。

東京都生活文化スポーツ局の東京くらしWEBでは、乳幼児の屋外でのやけどに注意！と題して日差しに熱せられた公園遊具やアスファルト等によるやけどの危険について注意喚起を行っています。日差しに熱せられた公園の遊具等は 70℃以上になることもあると事例を示しながら具体的な事故例も紹介しています。

八王子市や長野県辰野町では連日の猛暑で公園遊具の温度が上がり子どもがやけどの危険性があるとして、遊具に注意看板を設置しました。

北区の公園にある遊具にも、利用者に対してやけどの危険性など注意喚起が必要ではないでしょうか。北区の見解と対策をお聞かせください。

北区内には日影がほとんどない公園や児童遊園が何か所も見受けられます。例えば新しくできた滝野川3丁目公園は休憩をするためのベンチが設置されていますが、日陰になっていないため夏場は利用できません。パーゴラは設置されていますが日陰にはなりません。熱中症対策として日陰になる大きな木の植樹やパーゴラの上によしずをかけるなど対策は出来ないでしょうか。

北区では屋外運動施設や空調設備のない屋内施設の猛暑時等のキャンセル対応について利用者の熱中症への安全対策を図るため、予約した当日に東京都

内において熱中症アラートが発表された場合、当日のキャンセルを受け付けます。また、その際のペナルティも免除しています。

手続きは利用日当日に熱中症警戒アラートをご確認の上、各施設の担当受付窓口でキャンセルすることができます。

北区における野球場等運動場の利用について、熱中症対策のガイドラインはどのようなになっていますか。

屋外運動施設等の利用について、当日キャンセルしても還付・振替ができることを知らない場合は、無理をして運動を行ってしまう危険があります。区民への周知をもっとすべきではないでしょうか。区の見解をお伺いいたします。

また、無料キャンセルの条件を最高暑さ指数 28 以上（嚴重警戒）程度に設定し利用料の返金を出来るようにすべきではないでしょうか。

次に北区発注工事における熱中症対策についてお伺いいたします。

厚生労働省では、令和3年の「職場における熱中症による死傷災害の発生状況」を公表しました。その中で令和3年における職場での熱中症による死傷者は、561人であり、全体の約4割が建設業と製造業で発生しています。暑さ指数を実測せず、その結果としてWBGT基準値に応じた必要な措置が講じられていなかった事例等も見受けられます。熱中症による死亡者数は20人であり、そのうちの11人が建設業でした。

国土交通省は建設業の働き方改革の一環で、直轄土木工事の工期設定指針を2023年4月1日に改定しました。熱中症を防ぐために作業を止める日として猛暑日を「天候不良などによる作業不能日」に加え、作業不能日と休日との重複分を差し引かず数えるルールも明記しました。具体的には暑さ指数(WBGT)が31以上となる時間を年間で集計し、1日8時間として日数に換算する。この値を5年間で平均し、「猛暑日日数」と設定。雨や雪などによって作業ができ

ない日数と合わせて作業不能日の数とするものです。特記仕様書に記載した猛暑日の日数以上に現場で猛暑日があり作業を止めざるを得なかった場合は、工期延長を請求できるとしています。

北区発注工事における猛暑日の設定はどのようになっていますか。

今年のように例年になく猛暑日が多い場合、北区では工期の延期は認められるのでしょうか。

また工期が伸びた分に相当する現場管理費や一般管理費などの経費は請求できるのでしょうか。

この変更を特記仕様書に明記し区内工事受注業者に周知はされているのでしょうか。

お答えください

大きな2番目として樹木の老朽化についてお伺いいたします。

倒木による死亡事故は4月16日未明、相模原市緑区寸沢嵐の新戸キャンプ場で発生しました。高さ約18メートル、太さ約70センチの木が根元から倒れてテントに直撃し、中にいた夫婦が下敷きになりました。女性は胸腹部を圧迫されたことによる窒息死、男性は肋骨骨折などの重傷を負いました。

始めに公園内の樹木についてお伺いいたします。

北区内でも令和3年7月2日に名主の滝公園において15mくらいの木が倒れ、民家に被害が生じ、しばらく閉鎖しました。

北区の公園は令和4年度から指定管理者制度を導入して、管理委託を行っています。枯枝や倒木処理、腐朽木伐採、高中木伐採、低木刈り、草刈り等を行い、大きな枝の切り口への防腐処理など順次、樹木管理及び園地管理がなされています。しかし、区内の児童遊園や緑地公園等は直営の管理になっています。

そこでお伺いいたします。北区内の公園等にある樹木の危険度判定は全て行ったのでしょうか。

区立名主の滝公園児童コーナーや区立音無こぶし緑地など、区内の公園等では倒木の恐れのある桜の木などを伐採していますが、切り株が多く残った状態になっています。利用者にとって大変に危険なので計画的に撤去すべきと考えますがいかがでしょうか。

伐採した桜の樹などの代替えの木を早急に植樹してほしいと地元からの声もありますが今後の予定をお聞かせください。

次に街路樹についてお伺いいたします。

区道の街路樹については、植樹から年月が経ち幹回りも太く大きくなっているものが見受けられます。この街路樹が倒れた場合は民家の近くであるため、大きな被害が想定されます。区内の街路樹については樹木医による診断が行われているとお聞きしましたが、どの程度進んでいるのでしょうか。また、診断結果や対策についてお聞かせください。

滝野川7丁目の桜並木は、整備前は大きな桜の樹が道路を覆い見事な桜のトンネルを見せてくれていました。しかし桜の樹が老朽化し、台風などで枝が折れ、交通の妨げになるなど支障も出ていました。春は桜の花びらやガク、秋には落葉の清掃は、沿道の住民には大きな負担となっていました。

また、中央公園文化センター入口に続く王子新道にはイチョウが多く植えられ秋には見事な紅葉を見せてくれますが、イチョウの実や葉っぱは油分が多く、歩道にたまると大変危険な状態になります。

区内街路樹のイチョウや桜など沿道の住人にとって清掃等の負担の大きい種類の木は、他の樹木に植え替えてほしいとの声も多くあります。沿道の住民

の声を聞き、計画的な植え替えが必要ではないでしょうか。北区の見解をお聞かせください。

次に石神井川遊歩道の桜についてお伺いいたします。

今年の6月2日から3日昼過ぎにかけて、本州付近に停滞した梅雨前線と台風2号の影響により、1時間40ミリを超える激しい雨が降りました。

この台風の影響で、石神井川の遊歩道にあった桜の樹が倒れ通行できない状況になりました。かねてから、この石神井川遊歩道の桜については老朽化が進み、キノコが生え、立ち枯れしている部分も見受けられていました。議会でも取り上げ、早期の植え替えが必要であると訴えていました。

石神井川遊歩道には現在もまだ多くの危険な桜があります。樹木医の調査結果をお聞かせください。また、今後の対策についてお聞かせください。

健全な桜の樹の生育にあたっては、現在の植樹より木の間隔をあける必要があるとお聞きしました。

以前に決算特別委員会でパワーミックス工法というものを紹介させていただきました。根が横に行かないで下におりられるように、通気性だとか、空間を設けて桜の根が上に行かないで下に伸びるようにできる工法で、これは東京都建設局が採用しています。新たに若木に替えながら、そのときにはこのパワーミックス工法を採用していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

大きな3点目として自治会・町会行事への支援についてお伺いいたします。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、4年ぶりに各地で地域行事が再開されています。

この4年間のブランクは様々な影響を及ぼしています。機材の故障、町会自治会役員の引退など行事の再開に苦勞をしています。また、コロナ禍でICTの

普及も大きく前進しました。町会の中には公式LINEを採用して町会行事の案内を行っているところもあります。

町会、自治会のお祭りや盆踊りなどは地域コミュニティの活性化、顔の見える地域の絆づくりを担い、災害時の共助などにも寄与しています。また、町会役員にとっては災害時の避難所運営や炊き出しなどの訓練にもなっています。

多くの町会自治会では防災資機材を活用していますが、ポータブル電源など新しいもの、足りないものを支給してほしいとの声があります。一律支給ではなく各町会等から希望を取り、地域に合わせた機材をさらに配置できないでしょうか。

町会会館にインターネット環境を導入し、利用料を補助できないでしょうか。また、公式ラインなど住民へのお知らせツールは、地域コミュニティの構築や災害時のお知らせとしても利用できます。利用料の支援とともに活用の促進をすべきと考えますが見解をお聞かせください。

最後に4点目としてJR埼京線駅ホームドアの早期設置について伺いたします。

JR 東日本では、お客さまと列車との接触や線路への転落を防止する対策として、2031年度末頃までに東京圏在来線の主要路線330駅758番線にホームドアを導入することを目標としています。2022年度末までに山手線、京浜東北・根岸線を中心に線区単位では99駅197番線でホームドアの整備を完了しました。2023年度は、線区単位で12駅24番線に整備を進めています。

ホームドアの整備にあたり、最近は従来の壁式ではなく、京浜東北線蕨駅で採用されたスマートホームドアを積極的に導入することでホームドア整備の

早期展開を目指しているとお聞きしました。

北区内にはJRや地下鉄など多くの交通網があり、そのほとんどの駅にホームドアが設置をされています。しかし、JR埼京線の各駅にはいまだに設置がされていません。

板橋駅は、駅バリアフリー工事が進みホームにはエレベータ、エスカレータが設置され利用者から喜ばれています。しかし、従来のホームの幅は拡張されていないためエスカレータや階段の出入り口付近はホームが非常に狭くなっています。板橋駅の一日の乗降客数は6万～7万人。朝のラッシュ時などは非常に危険な状況も見受けられます。板橋駅では昨年、2件の人身事故が発生しました。

令和5年6月30日付けで発表されたJR東日本の鉄道駅バリアフリーに関する整備計画では埼京線については令和13年度までの設置予定になっています。

北区内の駅ホームドア未設置駅について、北区はどのように推進をしていくのか見解をお聞かせください。

特に危険性の高い板橋駅の一日も早いホームドアの設置を実現していただきたいと強く希望します。北区の取り組みと決意をお聞かせください。

以上、前向きな答弁を期待し質問を終わります。